自主防災組織とは

自主防災組織は、「自分たちのまちは自分たちで守る」という考えのもと、地震などの災害が発生したときに、地域が連携して災害に対応し、初動体制の確保や適切な情報伝達、救援物資の配付などを円滑に行うための住民による防災組織です。

活動内容

1 地域住民への防災知識の普及・啓発活動

防災活動は、まず住民一人ひとりが防災に関心を持ち、準備することが重要です。防災訓練のほか地域住民に防災知識を普及させるためのイベントを開催しましょう。

【地域での活動例】

- 防災講演会、映像学習会の開催
- 地域のお祭りや運動会等での防災イベントの実施 等

2 防災巡視・防災点検

防災の基本は、自分の住む町をよく知ることです。地域内の危険箇所や防災上の問題点を洗い出しましょう。改善すべき点があれば対策を立てて解決しておきましょう。

【点検のポイント】

- ハザードマップを活用し、想定される災害(洪水、土砂災害等)を確認
- まち歩きによる地域の危険箇所(ブロック塀、石垣、看板、がけ、よう壁、自動販売機等倒れやすいもの等)の点検・把握
- 燃えやすい物の放置状況
- 違法駐車や放置自転車の状況(緊急車両の通行の妨げにならないか)
- 要配慮者(高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、外国人、傷病者等)の見守り活動
- 各家庭の防災用品の点検

3 防災資機材の整備、物資の備蓄

防災資機材は、災害発生時に活躍します。地域の実情に応じて、必要な資機材を準備しておきましょう。

また、日頃からの点検や使い方の確認も忘れずに行いましょう。備蓄品は、各世帯（自助）と地域（共助）を合わせて、1週間分は確保しておきましょう。

【主な資機材、備蓄品】

- 右頁の例を参考にしてください。

4 防災訓練の実施

防災訓練は、いざというときに的確な対応をとるために欠かせないものです。地域の人たちの参加を積極的に呼びかけ、地域一丸となって防災訓練を行いましょ。

【避難時の訓練の例】

- 避難訓練（災害時要配慮者の誘導等も含む）
- 情報収集・伝達訓練

【避難後の訓練の例】

- 避難所運営訓練
- 給食給水訓練（炊き出し訓練等）

【応急訓練の例】

- 初期消火訓練（消火器訓練、バケツリレー訓練、地震体験、煙体験等）
※最寄の消防署・分署までお問い合わせください。
- 救出・救護訓練（心肺蘇生法、AED講習等）

5 その他の自主防災活動

- 防災マップの作成
- 緊急時連絡網の作成（平日昼間版と夜・週末版）
- 地区防災計画（避難計画を含む）の作成及び見直し
- 避難行動要支援者のための「個別計画」の作成
- 避難所運営マニュアルの作成（小学校、届出避難所単位）

補助対象となる防災資機材（例）

<p>避難・情報収集・伝達用</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 携帯用ラジオ 2 拡声器 3 懐中電灯 4 トランシーバー（免許申請等の費用は除く） 5 簡易トイレ 6 タオル、マスク、軍手、ビニール手袋 7 のぼり旗（標旗） 	<p>救出・救護用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 のこぎり、バール、かけや、つるはし、スコップ、手斧・なた、ジャッキ、カラビナ、ロープ、ウインチ、ハンマー、ワイヤカッター、チェーンソー、はしご 2 ヘルメット、ゴーグル 3 防煙・防塵マスク、皮手袋 4 多機能ナイフ、ボルトクリッパー 5 テント、担架、毛布 6 リヤカー、車椅子 7 救急セット（消毒液、ガーゼ、包帯などのセット） 8 AED 9 ごみ袋、ポリタンク
<p>初期消火・水防用</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 消火器 2 消火用バケツ 3 救命ボート（法定備品含む） 4 救命胴衣 5 防水シート 6 シャベル 7 土のう袋 8 一輪車 	<p>給食給水用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 炊飯装置、鍋、やかん、おたま 2 カセットコンロ（予備ボンベ含む） 3 給水タンク、ろ過装置
<p>その他</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 防災倉庫（物置） 2 発電機 	<ol style="list-style-type: none"> 3 投光機 4 ブルーシート